

報告日 令和7年10月31日  
報告回次 1回目

## 令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	北九州市			代表者名	武内 和久
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	政策局DX・AI戦略室	連絡先電話番号	093-582-3020
担当者役職	係長	担当者氏名	永江 好子	連絡先E-mail	
住所	803-8510 福岡県北九州市小倉北区大門1-1				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	KitaQDX人材育成事業
概要	DX推進リーダー（上位層）を対象とした研修（北九州市DX人材育成事業：ゴールド研修）で、会津若松市における先進的なGISの活用事例を紹介いただき、北九州市でGISを活用したデータ利活用を促進する。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） EBPM（エビデンスに基づく政策立案）		

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月24日	事前打合せ&講演（実地）	8時45分	17時30分	60
				活動時間（分）	465
2-2. 派遣場所	会場名	小倉北区役所		最寄駅	JR西小倉駅
	所在地	福岡県北九州市小倉北区大手町1-1		最寄駅からの交通手段	徒歩

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	伊藤 文徳
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったです等詳細に）	ゴールド研修の講義は、これまで会津若松市で実践されたGIS（データ利活用）の取組内容だけでなく、実現方法や行政職員としてのあり方など、実際に職員がDXを推進する際の障壁やその突破方法などをイメージしやすい講義だった。また、講義中に参加者の意見をスマートフォンで集めたり、生成AIを使って現場で講義内容のまとめパワーポイントを作成したり、斬新な業務の進め方をリアルタイムに見せてくださったことで職員の刺激になった。 また、「書かない窓口」「生成AI活用」「GIS」「フロントヤード」など、多岐にわたる取り組みについて有意義な意見交換ができた。
アドバイザーへの要望事項	特にありません。

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	50人
	属性	自治体職員		
		住民		
	人数	50		

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	GISのEBPMへの活用推進が必要だが、業務で必要としている一部の職員を除いて、その存在すら知らない職員も多い。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	研修の対象者は、DX推進リーダーの上位層にあたるゴールドメンバーの候補者たちである。GISは北九州市でも積極的に取り組んでいるが、今回の対象者の中には業務上GISを見たことも触ったこともないメンバーもありその有用性を知ることができる。また、GISを使っている対象者でも、先進自治体の使用例を見ることで活用方法のインスピレーションを得ることができる。さらに、行政内で改革を推進していく際のマインドセットや、実際の体験談を聞くことで、モチベーションを上げることができる。 また、当室職員との意見交換では、お互いの取組のブラッシュアップを図ることができる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<p>8:45～9:00 楽永室長、堀江部長・徳光課長・樋口次長と意見交換（以下政策監室）  9:00～10:00 スマラク担当ラインとの意見交換  10:00～11:00 フロントヤード改革担当ラインとの意見交換  11:00～11:30 データ利活用担当ラインとの意見交換  11:30～12:20 AI担当ラインとの意見交換  （昼休み）  13:30～16:30 GIS研修（ゴールド研修）（503・504会議室）  16:30～17:30 研修生からの個別相談（503・504会議室）</p>
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<p>当室各ラインとの意見交換では、互いの自治体の取組の紹介やその悩み相談などを行い、それぞれ解決のためのヒントを得た。実務担当者同士が本音で、規模が違う自治体の異なる取り組みを、思いも含めて共有することにより改善のポイントを見出し、モチベーションアップにもつながった。特にAI分野については、今年新設された会津若松の新庁舎における取り組みなど参考になる点が多かった。</p> <p>午後の講義では、現場でのDXに実際に取組み始めたDX推進リーダーが対象で、GISの有用性はもちろん、DXを進める上でぶつかる壁（テクニカルな部分だけではなく、上司、同僚、組織等含め）をどう乗り越えてきたかの経験談なども、今後DXを進める上で大いに役立つと思われた。</p>
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p> <p>今回意見交換会で得たヒントを、北九州市のDX推進に生かす。研修受講者は、今回の講演を生かし、DX推進を担う各職場の人材として成長・活躍することができる。</p>
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	上記のとおり
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>「有意義・おおむね有意義」と答えた受講生が100%、「普通」「有意義でなかった・あまり有意義でなかった」は0%。「住基をGISで公開するという発想に驚いた。」「講師のアイデアが素晴らしい、ひらめきと実行力は自分自身を変えるきっかけになりそう。」など、前向きなコメントが寄せられた。</p>
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい ②次年度に予算化を図り推進する</p> <p>DX人材育成プロジェクトはR5～R7の3年間での事業であるが、DX人材の継続育成と知識やスキルのブラッシュアップのため、来年度以降も継続する。今回伊藤さんの講演は大変好評だったので、来年度もお願いすることを検討している。</p>
4-4. 事業の最終的な目指す姿	2,400名のDX推進リーダーの育成とさらなるスキルアップにより、市役所のDXが自律的に進む状態をつくる。役所のDXで生み出された時間とマンパワーで、多様化する市民・地域や企業等のニーズや課題に迅速に対応する新しい行政のサービスモデルを生み出すことを目指している。

5.報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なお、**「その他の選択肢」**を選択した場合は、具体的な記入が必要となりますので、ご注意下さい。

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における**地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」**を数枚程度貼り付けて下さい。

